

私たちの町の文化財

私たちの町の文化財 池のほとりの不思議

■第5話 池辺寺の龍伝説

池辺寺の話に必ず登場する龍。その龍は、池辺寺とどんな関係があるのでしょうか？今回からは龍の行いを紹介していきます。文化元年（1804年）に写された「池辺寺縁起絵巻」には、池辺寺に関する7つの説話が描かれていて、その第1話に龍が登場します。味生池に住む龍が人々に悪さをするので、当時の国司が妙観山の観音様に参りました。すると「池のほとりに寺を建て、法会を続けよ」とお告げがあったので、奈良の都に行って天皇に願い、真澄という高僧を招くことになりました。大和国から来た真澄は龍を鎮めるために大変立派な寺を建てます。そして何年も大規模な法会を続け、ようやく龍を鎮めたのです。その後再び観音様のお告げがあり、お告げのとおり池に浮かんだ浮木で正観音像を彫り、寺のご本尊にしたという話です。龍は水神として考えられるため、龍の悪さというのは大雨や洪水といった水害のことと考えられます。そして池に浮いていた木は水害によって流されてきた流木とも考えられるでしょう。池辺寺は水害に悩まされていた人々の願いから創建されたのです。池辺寺のある池上地域は現在でも大雨による冠水がありますので、池辺寺が創建された頃から1000年以上の年月を経ても未だに龍との関わりの深い地域と言えるでしょう。

◆平成2年7月 大雨で冠水した池上地域
(熊本市文化振興課 芥川 太郎)

へえー
池辺寺は水害に
苦しむ人々の願
いから創建され
たなんて知らな
かったモン

